

『不完全』という自然

ある日友人から「この本読んだことある？」と差し出された本を見て、「ない。どんな本？」と聞き返したところ、「ケーキを三等分してと言われた子が、そのように切れない話。」という返事がありました。その瞬間、私の脳の中で電子回路に電気が行き渡って脳が一気に稼働するように、過去の記憶とこの本がつながりました。

職業上様々な研修を受講する機会があるのですが、その中でも忘れ難い研修の一つが、今から三年ほど前に東京代々木のオリンピック記念青少年総合センターで開催された研修です。その研修に聴講生の一として参加した際に出会ったのが、オランダ国立スポーツナレッジセンターのピーター・パレンツ氏でした。彼から「今日の講義のすべてを忘れても、このフレーズだけは覚えておいて下さい。」と言われたのが、「Normal as much as possible and special as needed. (僕のこうをすっかり特別扱いはないよ。ちよとした助けが必要な時があるだけだから。)」でした。ピーターは自身が職員の機能障害(身障者)であり、またパラリンピアンでもあります。このメッセージの核心は、「僕にはできないことがある。僕は、ただそれを知って欲しいだけ。それだけで、僕はすいぶん助かるんだ。」という心の声です。三等分するというのが理解できないなりに、「三等分」の意味を言葉で説明しようとしても、その子を助けることはできません。「丸いケーキを同じ



**学校法人
木の実幼稚園**
松山市西垣生町 1690
TEL 089-973-1256
FAX 089-973-1320

- 発行人●
- PTA 会長 渡部 香子
- 園長 中矢コノミ
- PTA 編集部 綾子 祥子 彩
- 中岡 西村 中岡

理事長 中矢謙一郎

大きくなるように三つに切る」という行為がいったいどのようなものなのかを、目で見てわかるように切ってみせてあげるか、或いは切り方を絵に描いてあげなければ、理解できないのです。にもかかわらず、我々大人は「なんでできないの?」とか「だから同じ大きさだって言ってるでしょ!」、子どもに詰め寄ってしまつてごうあります。我々大人って、なんで大失敗を毎日繰り返しているのでしょうか。わかっていないのは、実は我々大人の方だったなんて(笑)! 知る(笑)ことに気が付いてなかったなんて(笑)!

この世界の誰一人として完全な人間などいませんよね? 少なくとも、私はそんな人に出会ったことがありません。物事を理解する方法は、一人ひとり違っています。理解できる速度も違ってあります。そんな当たり前のことだとして、子どもを測るようとしてしまいます。子どもを助けるために全く役に立たないのに(笑)!

大切なことは、「その子をよく知る」こと。そして、その子の「今」を知ること。できることを増やしてあげる。そうして、自尊心と自信を深めてあげる。だと、私は思います。「不完全」という自然で当たり前な姿を知ることで、今より少しだけ幸せになれる気がします。



『四十五周年に思う』

四十五年を迎えた令和三年度。今改めて「卒園児台帳」や「このみ新聞」を手に取り、一人思いにふけて私に居ます。

「卒園児台帳」の卒園児は五千名に余り、只々感謝の気持ちで一杯です。いつぞや年中児に何度か声を掛けても何の反応もありません。あれ? と思ってもう一度声を掛けるとA君曰く「その名前ってパパのお名前だよ!」申し訳なし!.

また、「このみ新聞」においては、四十五年間一年に三回の発行は一回の休刊もありません。四十五周年の今年度の二学期で百三十三号を記録します。愛媛県内に私立幼稚園が九十園余りありますが、未だ幼園のように役員の方々が熱い思いで新聞発行に携わって下さっている園はありません。黒表紙が二冊になった「このみ新聞」の重さは新聞部の方々の真心と熱意に改めて感謝致します。

昭和五十二年七月十日の第一号「このみ新聞」に何が書かれていたのかを紐解いてみました。初代会長の色博様のお顔。今も年長児がお米作りの折には大変お世話になっております。お父さん、お母さんの声やその当時行われていた小運動会(子どもの日運動会)の元気な子ども達の姿です。

幼稚園の設立にあたっては、その当時垣生地域には保育園しかなく、「この地に幼稚園を」との熱心な後押しで、

45周年記念品



園長 中矢コノミ

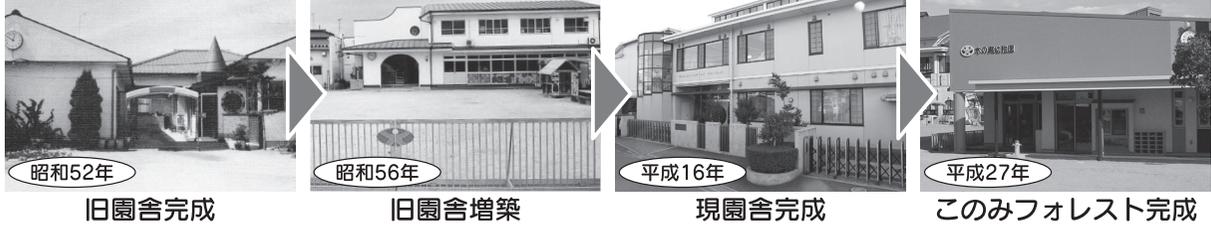
初代理事長のこれからの幼児教育と障がい児教育の必要性の思いが木の実幼稚園の礎となりました。無花果畑や甘夏畑の跡地、そしてリヤカーという荷車がやっと通れる狭い道、今の木の実橋には欄干がなく土の橋、それも所々に穴が開きとても通れる橋ではありませんでした。

いろいろなことが思い出されますが、今もこれからも木の実幼稚園の教育理念の基になっている「教育は人なり」という考え方を大切に、子どもを真ん中に、教育とは自分探しの旅を助ける営み、子どもは自分自身で自分の幹を大きくする、即ち成長する力は子ども自身の中にあることを信じ、子ども達が主体的に対話的に深い学びが出来るようキーワードを「考える」とし、子どもを常に肯定的に視、肯定的な言葉を第一声とし、「問」と「待つ」を大切に今後も子ども達と明るく元気に関わり続けていくことを願っています。

五十年に向け、今迄の教職員の努力と保護者の皆様の御理解を力とし、「真の幼児教育」を問いながら一歩一歩確実に進みたく思います。まずは感謝の気持ちを持ち健康と安全を大切に、日々生活をしていきたく思います。



45周年 園舎のあゆみ



昭和52年

旧園舎完成

昭和56年

旧園舎増築

平成16年

現園舎完成

平成27年

このみフォレスト完成



第45回 秋季大運動会



このみっこ！それいけジャンプ そらたかく

「運動会を終えて」

体育部部长 大島 香織

今年もコロナ禍で、制限や制約がある中ではありましたが、無事運動会が開催されました。四月に部長という大役を任ざられて、不安と重圧に押し潰されそうになりながらも今日という日を迎えられるのは、支えてくれた部員と、忙しい中でも質問などへの対応してくれた先生方のお陰です。

当日は心配された天候も回復し、部員一丸となって取り組む事ができました。これまでグラウンドでは、少ない回数ではありましたが、何度も練習を重ね頑張ってきた子供達の姿に、私もたくさん力をもらいました。

今はまだ辛い状況が続いていますが、どんな時も子供達が笑顔で楽しそうな姿を見れる事が親としては何よりの幸せです。このみっこのみんな素敵な時間をありがとう。そして、開催にあたりお世話になった皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



45回目のお誕生日 木の实幼稚園創立記念日

「バザーを
終えて」

文化部部長 野津 貴子

気持ちの良い晴天にも恵まれ、年長児・年長児の保護者一名の参加という制約のもとではありましたが、今年度もバザーの開催が叶いました。この機会をお借りして保護者の皆様、先生方のご協力に改めてお礼申し上げます。

長く続くコロナ禍においてなかなか見通しが立たず、さらにいつもと異なる形のバザーということで不備も多くなってしまう、補助役員の方々には大変ご迷惑をおかけしました。多くの変更にもご協力いただき、心より感謝申し上げます。手芸サークルの皆様、ボランティアの皆様もお忙しい中ありがとうございました。

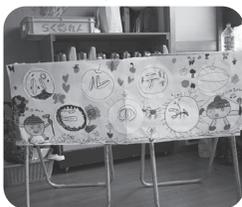
当日は子供たちの楽しく遊ぶ姿、真剣な姿、笑顔を沢山見かけ、園に響く賑やかな声も聞くことができました。楽しい思い出となっていれば幸いです。

名ばかりの部長でしたが、頼もしい部員たちに支えられ、四十五周年という大きな節目をなんとか無事に迎えることができました。本当にありがとうございました。

年少さん 年中さん ぱるていーこのみ



年中さんがお店屋さん♪



いらっしゃいませー!!



年長さん バザーでお買物



ロケットを作ったよ!



段ボール
フリスビー



ワニワニパニック
親子で対決!



園からの お知らせ

愛媛木材青年協議会より九月下旬に「どうぞのいす」の贈呈がされました。

「木育」というキーワードのもと、子ども達に木を身近に感じてもらうという願いの活動です。子ども達の大好きな絵本、「どうぞのいす」に登場する椅子を形にされたものです。

「どうぞ」が沢山の園児から聞こえてくることを願っているとのこと。この活動は、平成十六年から続き、約三百個以上を贈呈されているとのこと。



大変嬉しい贈り物に感謝の気持ちでいっぱいです!



